



Cisco MeetingPlace シャドウ サーバ の設定

Cisco MeetingPlace システムは、シャドウ サーバ機能をサポートします。シャドウ サーバは、Cisco MeetingPlace のシステムまたはサイトに障害が発生した場合に、プライマリ Cisco MeetingPlace Audio Server の代わりに使用できるバックアップ Cisco MeetingPlace Audio Server です。シャドウ サーバを使用すると、Cisco MeetingPlace の全機能が、最小の時間のロスとサービスの中断で維持されます。

次の各項では、「プライマリ サーバ」という用語は、通常使用される Cisco MeetingPlace Audio Server を指します。「シャドウ サーバ」は、プライマリ サーバからデータベースを複製するバックアップ Cisco MeetingPlace Audio Server を指します。



(注)

Cisco MeetingPlace 8106 および Cisco MeetingPlace 8112 のシャドウ サーバの動作は、PCI シャドウ サーバの動作と異なります。Cisco MeetingPlace 8106 および Cisco MeetingPlace 8112 のシャドウ サーバには、データベース複製機能がありますが、自動フェールオーバー機能はありません。

次の項で、シャドウ サーバを設定する方法およびプライマリ サーバからシャドウ サーバに切り替える方法を説明します。

- [シャドウ サーバを設定する前に \(P.3-2\)](#)
- [プライマリ サーバの設定について \(P.3-5\)](#)
- [シャドウ サーバの設定について \(P.3-8\)](#)
- [スタンドアロン モード時のシャドウ サーバの設定について \(P.3-10\)](#)
- [シャドウ サーバの切り替えのテストについて \(P.3-15\)](#)

シャドウ サーバを設定する前に

シャドウ サーバをインストールする前に、次の項のタスクを実行します。

- 要件の確認 (P.3-2)
- 必要な情報の入手 (P.3-2)
- シャドウ サーバのインストール (P.3-2)
- シャドウ サーバのライセンスの確認 (P.3-2)

要件の確認

シャドウ サーバをインストールする前に、次の各要件を満たしていることを確認します。

- プライマリ サーバは、Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.1 以降を使用している。
- シャドウ サーバは、Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.1 以降を使用している。
- シャドウ サーバには、クリーンなデータベースがある。
- シャドウ サーバは、シャドウ サーバライセンスを持っている。
- すべての TCP ポートは、プライマリ サーバとシャドウ サーバ間で開いている。
- すべての IP ポートは、プライマリ サーバとシャドウ サーバ間で開いている。
- シャドウ サーバを設定できるように、プライマリ サーバの再起動をスケジュールしてある。

必要な情報の入手

シャドウ サーバをインストールする前に、次の情報を入手します。

- プライマリ サーバの IP アドレス
- プライマリ サーバのホスト名
- シャドウ サーバの IP アドレス
- シャドウ サーバのホスト名
- シャドウ サーバのイーサネット アドレス
- シャドウ サーバのデフォルト ゲートウェイ アドレス
- シャドウ サーバのサブネット マスク アドレス
- シャドウ サーバ用の NTP サーバの IP アドレス

シャドウ サーバのインストール

シャドウ サーバのインストールは、プライマリ サーバの場合と同じです。Cisco MeetingPlace 8100 シリーズのインストールに関する詳細については、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。

シャドウ サーバのライセンスの確認

シャドウ サーバは、プライマリ サーバと同じライセンス キーを持っている必要があります。

ステップ 1 シャドウ サーバに接続されていることを確認します。

ステップ 2 『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』の手順に従って、CLI にアクセスします。



(注) CLI コマンドでは、大文字と小文字が区別されます。CLI コマンドについては、付録 A「コマンドライン インターフェイス リファレンス」を参照してください。

ステップ 3 端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、有効にします。ロギングについては、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。

ステップ 4 次の手順に従って、CLI にスーパーユーザとしてログインします。

- a. telnet、ssh、またはローカルのいずれかで、Cisco MeetingPlace Audio Server システムに接続します。
- b. ユーザ名には、デフォルト (admin) を入力します。パスワードには、デフォルト (cisco) を入力するか、デフォルト パスワードを変更した場合は、新しいパスワードを入力します。
- c. su と入力して、CSC 特権レベルに変更します。
- d. Cisco MeetingPlace Audio Server システムにより、別のパスワードの入力を求められます。このパスワードには、Password Of the Day (POD) を使用します。POD を入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。Cisco TAC への問い合わせについては、『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』を参照してください。

csc\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 5 csc\$ プロンプトで、om -c と入力します。次の例のようなライセンスの一覧が出力されます。

Cisco MeetingPlace 8106 の場合

```
meetingplace:csc$ om -c
avail (erc ) name          versn  ocount  xdate      sdate      ecode
576 (0 ) accessports    1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  E020407148BF2B2B1218
1 (0 ) calendar          1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  4A7148E020407148BF22
576 (0 ) confports      1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  A0C204C07148048BCB2B
576 (0 ) dataconf       1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  B024040B71E48DB0714B
1 (0 ) directory        1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  70207407148BF2B071EC
1 (0 ) exchg dataconf   1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  402071480407148BF271
1 (0 ) fax              1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  B02040071487148BF1A9
1 (0 ) flexmenus        1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  602040707148148BF29D
4 (0 ) languages        1.000  4      01-jan-00  01-jan-00  5020407148BF2B07549E
576 (0 ) mndata          1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  E020407148F207619B68
1 (0 ) mpvideo           1.000  0      01-jan-00  01-jan-00  B02040071487148BF1A9
1 (0 ) mpwebcam         1.000  0      01-jan-00  01-jan-00  602040707148148BF29D
1 (0 ) msmtp            1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  0020407148B071481203
0 (0 ) multiunit        1.000  0      01-jan-00  01-jan-00  70204071480F2B2B1251
1 (0 ) netmgt           1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  B02014865ACF2B2B12FE
1 (0 ) notes calendar   1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  2020407148BF2B2B129F
576 (0 ) notification   1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  B0204071407F2B2B123A
576 (0 ) recording      1.000  576    01-jan-00  01-jan-00  602048BF2B993F6012BB
1 (0 ) sametime         1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  00071480407148BF127A
1 (0 ) shadow           1.000  0      01-jan-00  01-jan-00  00048BF207148B2B129D
1 (0 ) smtp            1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  007148020407148B129B
1 (0 ) voting           1.000  1      01-jan-00  01-jan-00  E02007148407148B1201
100 (0 ) web            1.000  100    01-jan-00  01-jan-00  50700F1173F84D916199
110 (0 ) workstations    1.000  110    01-jan-00  01-jan-00  309090E10C840031B759
```

Cisco MeetingPlace 8112 の場合

```
meetingplace:csc$ om -c
avail (erc ) name          versn  ocount  xdate      sdate      ecode
1152 (0 ) accessports    1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 E020407148BF2B2B1218
1 (0 ) calendar          1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 4A7148E020407148BF22
1152 (0 ) confports      1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 A0C204C07148048BCB2B
1152 (0 ) dataconf       1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 B024040B71E48DB0714B
1 (0 ) directory         1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 70207407148BF2B071EC
0 (0 ) exchg dataconf    1.000 0        01-jan-00 01-jan-00 402071480407148BF271
1 (0 ) fax               1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 B02040071487148BF1A9
2 (0 ) flexmenus        1.000 2        01-jan-00 01-jan-00 602040707148148BF29D
4 (0 ) languages        1.000 4        01-jan-00 01-jan-00 5020407148BF2B07549E
1152 (0 ) mndata         1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 E020407148F207619B68
1 (0 ) msmail            1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 0020407148B071481203
0 (0 ) multiunit        1.000 0        01-jan-00 01-jan-00 70204071480F2B2B1251
1 (0 ) netmgt           1.000 4        01-jan-00 01-jan-00 B02014865ACF2B2B12FE
1 (0 ) notes calendar   1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 2020407148BF2B2B129F
1152 (0 ) notification  1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 B0204071407F2B2B123A
1152 (0 ) recording     1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 602048BF2B993F6012BB
1 (0 ) sametime         1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 00071480407148BF127A
1 (0 ) shadow           1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 00048BF207148B2B129D
1 (0 ) smtp             1.000 1        01-jan-00 01-jan-00 007148020407148B129B
1152 (0 ) voting        1.000 1152    01-jan-00 01-jan-00 E02007148407148B1201
2 (0 ) web              1.000 2        01-jan-00 01-jan-00 50700F1173F84D916199
200 (0 ) workstations   1.000 200     01-jan-00 01-jan-00 309090E10C840031B759
```

ステップ 6 プライマリ サーバの CLI にアクセスします。

ステップ 7 CLI にスーパーユーザとしてログインします。csc\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 8 csc\$ プロンプトで、**om -c** と入力します。上記の例のようなライセンスの一覧が出力されます。

ステップ 9 シャドウ サーバからの出力結果をプライマリ サーバからの出力結果と比較します。シャドウ サーバとプライマリ サーバのライセンス情報は、同一である必要があります。シャドウ サーバがプライマリ サーバと同じライセンスを持っていない場合は、作業を進めないでください。Cisco TAC にお問い合わせください。テクニカル サポートを受けるための情報については、『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』を参照してください。



(注) 相違点は、プライマリ サーバにはシャドウ ライセンスの **ocount** 値が必要ないという点だけです (シャドウ ライセンスは、サーバがシャドウ サーバとして動作することを許可するものです)。シャドウ サーバのシャドウ ライセンスの **ocount** は、値 1 である必要があります。一方、プライマリ サーバのシャドウ ライセンスの **ocount** は、任意の値となります。プライマリ サーバをシャドウ サーバモードで使用するには、プライマリ サーバは、シャドウ サーバがシャドウ ライセンスに持つのと同一 **ocount** 値を持つ必要があります。

プライマリ サーバの設定について

この項では、シャドウ サーバを設定する前にプライマリ サーバに関して実行する必要がある手順を説明します。次の手順を実行します。

- プライマリ サーバを非アクティブにします。P.3-5の「[プライマリ サーバを非アクティブにする](#)」を参照してください。
- シャドウ サーバをプライマリ サーバに接続します。P.3-6の「[プライマリ サーバへのシャドウ サーバの接続](#)」を参照してください。
- プライマリ サーバを再起動します。P.3-7の「[プライマリ サーバの再起動](#)」を参照してください。
- プライマリ サーバのデータベースをバックアップします。P.3-7の「[プライマリ サーバのデータベースのバックアップ](#)」を参照してください。

プライマリ サーバを非アクティブにする

ステップ 1 まだ接続していない場合は、CLI にアクセスします。

ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 3 端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、有効にします。ロギングについては、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。

ステップ 4 tech\$ プロンプトで、net と入力します。次の例のように表示されます。

```
meetingplace:tech$ net
  1) View the server & site configuration
  2) Modify the server configuration
  3) Select another server (current unit = #0)
  99) Quit
Select:
```

ステップ 5 3 と入力して、別のサーバを選択します。Cisco MeetingPlace システムにより、ユニット番号の入力を求められます。

```
Select: 3
Unit:
```

ステップ 6 9 と入力して、ユニット 9 を選択します。次の例のように表示されます。

```
Unit: 9
  1) View the server & site configuration
  2) Modify the server configuration
  3) Select another server (current unit = #9)
  99) Quit
Select:
```

ステップ 7 2 と入力して、サーバの設定を変更します。

- ステップ 8** ユニット 9 が現在非アクティブ（正しい状態）の場合、Cisco MeetingPlace システムにより、アクティブに変更するかどうか確認を求められます。y と入力します。次の例を参照してください。

```
You have selected a new configuration for this unit.
Unit class = SHADOW
Site class = REMOTE
Update the initialization file (y/[n])? y
DONE
NOTE: Changes take effect with the next restart of the unit.
Unit class = SHADOW/REMOTE
```

- ステップ 9** net コマンドメニューから、オプション 3、4、5、および 6 を順に選択し、プロンプトに従って適切なデータを入力します。P.3-2 の「必要な情報の入手」のデータを入力します。特定の値を変更する必要がない場合は、Enter キーを押して、変更を加えずに次の行に移動します。
- ステップ 10** シャドウ サーバの別のサイトを選択する場合（シャドウ サーバが物理的に異なるサイトに配置されている場合）は、2 と入力します。
- ステップ 11** シャドウ サーバがアクティブになったことを確認した後、99 と入力して、メインの net コマンドメニューに戻ります。次の例のように表示されます。

```
Select: 99
Current server configuration:
Unit:                #9 (vp9)
Active:              YES
Description:         Shadow Server
Kind:                Shadow server
IP Address:          10.10.10.10
Ethernet address:    0001bc0211b8
Site:                #0 (Home Site)
Site subnet mask:    255.255.255.0
Site broadcast addr: 0.0.0.0
Site default gateway: 10.10.10.1
Do you wish to commit these changes (y/n)?
```

- ステップ 12** ここで示される設定が、P.3-2 の「必要な情報の入手」の情報と一致することを確認します。
- ステップ 13** 設定が一致しない場合は、変更を保存しないでください。n と入力し、手順のうち必要なステップを、正しいデータを入力してやり直します。設定が一致する場合は、y と入力して、これらの変更を保存します。
- ステップ 14** 99 と入力して、net コマンドを終了します。

プライマリ サーバへのシャドウ サーバの接続

- ステップ 1** MeetingTime で、プライマリ サーバにログインします。
- ステップ 2** Configure タブに移動します。
- ステップ 3** 左側のペインで Usage Parameters を選択します。

- ステップ 4 **Query** をクリックします。右側のペインに値が表示されます。
 - ステップ 5 **Network Shadow Svr** セクションまで、下方向に半分ほどスクロールします。
 - ステップ 6 **Shadow attached?** の値を No から Yes に変更します。
 - ステップ 7 右下隅にある **Save Changes** をクリックします。
 - ステップ 8 ログアウトし、**MeetingTime** を閉じます。
-

プライマリ サーバの再起動

プライマリ サーバを再起動して、変更を有効にします。この再起動は、P.3-2 の「要件の確認」で説明されているように、あらかじめスケジュールしておく必要があります。

- ステップ 1 まだ接続していない場合は、CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 **technician** としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 **restart enable** と入力します。Cisco MeetingPlace システムにより、プライマリ サーバを再起動することを確認するように求められます。
 - ステップ 4 **y** と入力します。プライマリ サーバが再起動します。
-

プライマリ サーバのデータベースのバックアップ

プライマリ サーバのデータベースをバックアップします。



- (注) バックアップ機能は、このリリースの Cisco MeetingPlace で変更されています。現在は、Cisco MeetingPlace Backup Gateway を使用して実行されるようになりました。Cisco MeetingPlace Backup Gateway のインストール方法、設定方法、および使用方法については、『*Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Backup Gateway Release 5.3*』を参照してください。
-

シャドウ サーバの設定について

シャドウ サーバを設定するには、次の手順を実行します。

- シャドウ サーバが会議サーバとして設定されていることを確認します。P.3-8 の「シャドウ サーバが会議サーバとして設定されていることの確認」を参照してください。
- `savelicense` コマンドを実行します。P.3-9 の「ライセンスの保存」を参照してください。
- データベース バックアップを復元します。P.3-9 の「データベース バックアップの復元」を参照してください。
- シャドウ サーバのパラメータを設定します。P.3-10 の「スタンドアロン モード時のシャドウ サーバの設定について」を参照してください。
- シャドウ サーバを再起動します。P.3-12 の「シャドウ サーバの再起動」を参照してください。
- 設定をテストします。P.3-12 の「シャドウ サーバの設定のテスト」を参照してください。

シャドウ サーバが会議サーバとして設定されていることの確認

ステップ 1 CLI にアクセスします。

ステップ 2 `technician` としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 3 端末のログインをまだ有効にしていない場合は、有効にします。ログインについては、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。

ステップ 4 tech\$ プロンプトで、`swstatus` と入力します。

シャドウ サーバが会議サーバとして設定されていることを確認します。次の例の 2 行目を参照してください。設定されていない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。テクニカル サポートを受けるための情報については、『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』を参照してください。

```
meetingplace:tech$ swstatus
Conference server 5.3.0   S/N: M00002   Cisco Systems
System status: Operating
System mode: Up
Temperature: 30
Power supply: OK

MODULE NAME          STATUS      VERSION
SIM                  UP          "8/14/04 20:08 MPBUILD-rel530s"
LSH                  UP          "8/14/04 18:53 MPBUILD-rel530s"
SNMPD                UP          "8/14/04 20:33 MPBUILD-rel530s"
DBQSERVER            UP          "8/14/04 19:13 MPBUILD-rel530s"
DBSERVER             UP          "8/14/04 19:13 MPBUILD-rel530s"
POSERVER             UP          "8/14/04 19:43 MPBUILD-rel530s"
CPSERVER             UP          "8/14/04 19:40 MPBUILD-rel530s"
CONFSCHEM            UP          "8/14/04 19:58 MPBUILD-rel530s"
WSSERVER             UP          "8/14/04 20:09 MPBUILD-rel530s"
VOICESERVER          UP          "8/14/04 20:28 MPBUILD-rel530s"
GWSIMMGR             UP          "8/14/04 20:41 MPBUILD-rel530s"

UNIT SITE  STATUS  RUN LEVEL  UNIT KIND  LAST ATTACH
  10    0  OK      UP         GATEWAY    8/23/04 04:38:08
  11    0  OK      UP         GATEWAY    8/23/04 04:37:38
  12    0  OK      UP         GATEWAY    8/23/04 12:25:26
  13    0  OK      UP         GATEWAY    8/23/04 19:41:28
  14    0  OK      UP         GATEWAY    8/23/04 04:37:19
```




(注) Cisco MeetingPlace システムが起動していないときは、温度 (Temperature) は「Unknown」と表示されます。Cisco MeetingPlace システムが起動した後は、正しく表示されます。

ライセンスの保存

- ステップ 1 CLI にアクセスします。
- ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
- ステップ 3 端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、有効にします。ロギングについては、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。
- ステップ 4 tech\$ プロンプトで、down disable と入力します。この操作により、シャドウ サーバが停止します。
- ステップ 5 シャドウ サーバが停止したら、フロッピー ドライブにディスクを挿入します。フロッピー ドライブは、Cisco MeetingPlace 8106 の場合は前面、Cisco MeetingPlace 8112 の場合は背面にあります。
- ステップ 6 tech\$ プロンプトで、savelicense と入力します。
- ステップ 7 savelicense コマンドが終了したら、フロッピー ドライブからディスクを取り出します。

データベース バックアップの復元

- ステップ 1 CLI にアクセスします。
- ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
- ステップ 3 端末のロギングをまだ有効にしていない場合は、有効にします。ロギングについては、『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』を参照してください。
- ステップ 4 P.3-7 の「プライマリ サーバのデータベースのバックアップ」で作成した、プライマリ サーバのバックアップを指定します。
- ステップ 5 restore と入力して、バックアップを復元します。



(注) restore コマンドにより、プライマリ サーバのデータベースがシャドウ サーバにコピーされます。これには、データベースのサイズに応じて、5 ~ 10 分かかる場合があります。

- ステップ 6 復元が完了したら、P.3-9 の「ライセンスの保存」の手順 7 で使用したディスクをフロッピー ドライブに挿入します。

■ スタンドアロン モード時のシャドウ サーバの設定について

ステップ7 tech\$ プロンプトで、**update** と入力します。

ステップ8 アップデートが完了したら、ディスクをフロッピー ドライブから取り出します。

スタンドアロン モード時のシャドウ サーバの設定について

次の各項のタスクを実行して、シャドウ サーバの設定を完了します。

- シャドウ サーバの LAN パラメータの設定 (P.3-10)
- シャドウ サーバのテレフォニー パラメータの設定 (P.3-10)
- シャドウ サーバの MeetingTime 値の設定 (P.3-11)
- 言語がシャドウ サーバにコピーされたことの確認 (P.3-11)
- シャドウ サーバのゲートウェイ ルーティングの設定 (P.3-11)
- シャドウ サーバの FlexMenus の設定 (P.3-12)
- シャドウ サーバのカスタム プロンプトの設定 (P.3-12)
- シャドウ サーバの変換テーブルの設定 (P.3-12)

シャドウ サーバの LAN パラメータの設定

ステップ1 **net** コマンドを実行して、シャドウ サーバの LAN パラメータを設定します。P.3-2 の「必要な情報の入手」の情報を使用します。LAN パラメータの設定に関する詳細については、P.2-1 の「Cisco MeetingPlace 8100 シリーズ用の LAN パラメータの設定」を参照してください。



(注) シャドウ サーバを、ローカルでユニット 0 として設定します。

ステップ2 LAN パラメータの設定が完了したら、**restart** と入力して、シャドウ サーバを再起動します。

シャドウ サーバのテレフォニー パラメータの設定

ステップ1 **blade** コマンドを入力して、シャドウ サーバのテレフォニー パラメータを設定します。P.3-2 の「必要な情報の入手」の情報を使用します。テレフォニー パラメータの設定に関する詳細については、P.2-7 の「ブレードの設定について」を参照してください。

ステップ2 テレフォニー パラメータの設定が完了したら、**restart** と入力して、シャドウ サーバを再起動します。

シャドウ サーバの MeetingTime 値の設定

P.3-9 の「データベース バックアップの復元」の **restore** コマンドを入力すると、ほとんどの MeetingTime 値はプライマリ サーバからシャドウ サーバにコピーされます。プライマリ サーバからシャドウ サーバにコピーされなかった値すべてを、MeetingTime を使用して手動で変更します。

-
- ステップ 1 MeetingTime で、シャドウ サーバにログインします。
 - ステップ 2 **Configure** タブに移動します。
 - ステップ 3 左側のペインで **Telephony Access** を選択します。
 - ステップ 4 **Query** をクリックします。右側のペインに値が表示されます。
 - ステップ 5 シャドウ サーバのメイン電話番号やその他の該当するパラメータがプライマリ サーバのものと同一であることを確認します。同じでない値はすべて変更します。
 - ステップ 6 **Save Changes** をクリックします。
 - ステップ 7 左側のペインで **Server Configuration** をクリックします。
 - ステップ 8 **Query** をクリックします。右側のペインに値が表示されます。
 - ステップ 9 すべての値が正確であることを確認します。
 - ステップ 10 **Max Recording Space (min.)** フィールドの値が現在の設定にとって適切であることを確認します。
-

言語がシャドウ サーバにコピーされたことの確認

プライマリ サーバにインストールされているすべての言語が、シャドウ サーバにもインストールされていることを確認します。

シャドウ サーバのゲートウェイ ルーティングの設定

次の 2 つの方法のいずれかで、ゲートウェイ ルーティングを設定します。

- Cisco MeetingPlace システムに一連のバックアップゲートウェイ マシンがある場合は、シャドウ サーバとして設定されたシャドウ サーバをオンラインにする前に、バックアップゲートウェイ マシンをインストールし、接続します。シャドウ サーバがスタンダアロンサーバモードである間に、バックアップゲートウェイを設定し、接続します。ゲートウェイのインストール手順については、適切な『Cisco MeetingPlace administrator's guide』を参照してください。
プライマリ サーバをシャドウ サーバに変換しているとき、ゲートウェイは停止しています。シャドウ サーバをプライマリ サーバに変換した後、ゲートウェイは再接続されます。
- Cisco MeetingPlace システムにバックアップゲートウェイ マシンがない場合は、プライマリ サーバの停止時に Cisco MeetingPlace システムがすべての TCP 要求をシャドウ サーバに再ルーティングするように Cisco MeetingPlace システムを設定します。

シャドウ サーバの FlexMenus の設定

プライマリ サーバに FlexMenus が設定されている場合は、シャドウ サーバに FlexMenus を設定しません。

シャドウ サーバのカスタム プロンプトの設定

プライマリ サーバにカスタム プロンプトが設定されている場合は、シャドウ サーバに同じカスタム プロンプトを設定します。

シャドウ サーバの変換テーブルの設定

プライマリ サーバとシャドウ サーバの変換テーブルは異なる場合があります。特に、シャドウ サーバが異なる場所に配置されている場合には、変換テーブルが異なる場合があります。プライマリ サーバの変換テーブルは複製されません。したがって、プライマリ サーバの変換テーブルと一致するように、シャドウ サーバの変換テーブルを設定する必要があります。

シャドウ サーバの再起動

シャドウ サーバのパラメータの設定後に、シャドウ サーバを再起動します。

-
- ステップ 1 CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 tech\$ プロンプトで、**restart enable** と入力します。
 - ステップ 4 y と入力して、シャドウ サーバを再起動することを確認します。
-

シャドウ サーバの設定のテスト

次の手順は、シャドウ サーバがまだスタンドアロン サーバ モードにある間に実行する必要があります。

-
- ステップ 1 『*Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3*』の手順を完了することで、シャドウ サーバの機能を確認します。
 - ステップ 2 MeetingTime にログインできることを確認します。
 - ステップ 3 すべてのゲートウェイの機能と接続性を確認します。詳細については、各ゲートウェイの *管理者ガイド* を参照してください。
-

シャドウ サーバとして動作するようにシャドウ サーバを変更する

この項では、シャドウ サーバをスタンドアロン モードからシャドウ サーバ モードに変更する方法を説明します。



(注) **net** コマンドを実行すると、**setup** コマンドによる設定が上書きされます。したがって、**setup** コマンドを実行した後に **net** コマンドを実行した場合には、もう一度 **setup** コマンドを実行する必要があります。

ステップ 1 CLI にアクセスします。

ステップ 2 **technician** としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 3 tech\$ プロンプトで、**down** と入力します。

ステップ 4 **y** と入力して、シャドウ サーバを停止することを確認します。

ステップ 5 シャドウ サーバが停止したら、**setup** と入力します。次の例のように表示されます。

```
meetingplace:tech$ setup
This program determines the basic personality of this unit.
Current unit class = SINGLE
Current site class = LOCAL

Select the unit class:
  1) MeetingPlace -- Standalone (SINGLE).
  5) Shadow Network Server (SHADOW).
 99) Quit.
Select:
```

ステップ 6 **5** と入力して、シャドウ ネットワーク サーバを選択します。次の例を参照してください。

```
Select: 5
You will now be prompted for host name and IP address of the primary
server.
This information is used to establish the network connection. Please,
when prompted for a host name, enter a proper Internet host name, with
no spaces or funny characters, not the IP address.

Host name of the primary server []:
```

ステップ 7 Cisco MeetingPlace システムにより、プライマリ サーバのホスト名の入力を求められます。IP アドレスではなく、適切なインターネット ホスト名を、スペースを含めずに入力します。

ステップ 8 プロンプトに従って、その他の必要な情報を入力します。設定の最後に、サイト クラスは「REMOTE」であると表示され、初期化ファイルをアップデートすることを求められます。上記の例を参照してください。



(注) サイト クラスは必ず「REMOTE」に設定されます。シャドウ サーバがプライマリ サーバと物理的に同じサイトに配置されている場合も例外ではありません。

■ スタンドアロン モード時のシャドウ サーバの設定について

ステップ 9 y と入力して、初期化ファイルをアップデートします。

```
You have selected a new configuration for this unit.
Unit class = SHADOW
Site class = REMOTE
Update the initialization file (y/[n])? y
DONE
NOTE: Changes take effect with the next restart of the unit.
Unit class = SHADOW/REMOTE
```

ステップ 10 **restart enable** と入力して、シャドウ サーバを再起動します。

設定の確認

ステップ 1 プライマリ サーバの CLI にアクセスします。

ステップ 2 **technician** としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。

ステップ 3 **swstatus** と入力します。

ステップ 4 シャドウ サーバのユニット 9 が接続されていることを確認します。

ステップ 5 シャドウ サーバの CLI にアクセスします。

ステップ 6 **swstatus** と入力します。

ステップ 7 シャドウ サーバがプライマリ サーバのユニット 0 に接続されていることを確認します。

ステップ 8 少なくとも 15 分間待ちます。

ステップ 9 プライマリ サーバ上で実行されている会議がある場合は、CLI でシャドウ サーバにログインし、**cptrace** と入力します。

データが適切に複製されていれば、コール トレースからデータが記録されている様子が表示されます。トレースに何も記録されていない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。テクニカル サポートを受けるための情報については、『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』を参照してください。

ステップ 10 **q** と入力して、**cptrace** コマンドを終了します。

ステップ 11 **alarm** と入力します。

ステップ 12 すべてのアラームを書き留めます。



(注) シャドウ サーバがシャドウ サーバ モードで動作している間、テレフォニー インターフェイスはアクティブではありません。接続されている PBX は、すべてのスパン上の赤色の T1 アラームを監視します。

ステップ 13 **clearalarm all** と入力して、アラームをクリアします。

ステップ 14 **date** と入力して、日付と時刻が正しいことを確認します。

シャドウ サーバの切り替えのテストについて



(注) 切り替えのテストは、数時間待ってから行ってください。

この項では、シャドウ サーバの切り換えをテストして、データが正しく複製されることを確認する方法を説明します。次の手順を実行します。

- [プライマリ サーバでの MeetingTime レポートの実行 \(P.3-15\)](#)
- [プライマリ サーバのシャットダウン \(P.3-16\)](#)
- [シャドウ サーバからプライマリ サーバへの変更 \(P.3-16\)](#)
- [切り替えのテスト \(P.3-16\)](#)
- [シャドウ サーバのシャドウ サーバモードへの再変更 \(P.3-17\)](#)
- [プライマリ サーバの再オンライン化 \(P.3-17\)](#)

プライマリ サーバでの MeetingTime レポートの実行

ステップ 1 プライマリ サーバで、MeetingTime にログインします。

ステップ 2 **Report** タブに移動します。

ステップ 3 左側のペインで **Raw Meeting Details** を選択します。

ステップ 4 **Execute** をクリックします。

ステップ 5 レポートが終了したら、適切な場所にレポートを保存します。

ステップ 6 左側のペインで **Raw Profile Information** を選択します。

ステップ 7 **Execute** をクリックします。

ステップ 8 レポートが終了したら、適切な場所にレポートを保存します。

ステップ 9 MeetingTime を終了します。

プライマリ サーバのシャットダウン

-
- ステップ 1 プライマリ サーバの CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 **down disable** と入力します。
 - ステップ 4 **y** と入力して、プライマリ サーバをシャットダウンすることを確認します。
-

シャドウ サーバからプライマリ サーバへの変更

-
- ステップ 1 シャドウ サーバの CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 **setup** と入力します。
 - ステップ 4 **1** と入力して、「MeetingPlace -- Standalone (SINGLE)」を選択します。
 - ステップ 5 設定が変更されたら、**restart enable** と入力します。
-

切り替えのテスト

-
- ステップ 1 P.3-15 の「[プライマリ サーバでの MeetingTime レポートの実行](#)」のステップ 3 で実行した Raw Meeting Details Report のデータと、新しく設定したプライマリ サーバ（元はシャドウ サーバ）の情報を比較して、複製が行われていることを確認します。
 - ステップ 2 P.3-15 の「[プライマリ サーバでの MeetingTime レポートの実行](#)」のステップ 6 で実行した Raw Profile Information Report のデータと、新しく設定したプライマリ サーバ（元はシャドウ サーバ）の情報を比較して、複製が行われていることを確認します。
 - ステップ 3 CLI にアクセスします。
 - ステップ 4 technician としてログインします。tech\$ プロンプトが表示されます。
 - ステップ 5 **gwstatus** と入力して、ゲートウェイが再接続されたことを確認します。
 - ステップ 6 **spanstat -s** と入力して、スパンが動作中であることを確認します。
 - ステップ 7 MeetingTime にログインして、接続できることを確認します。
-

シャドウ サーバのシャドウ サーバモードへの再変更

切り替えのテストが完了したら、シャドウ サーバをシャドウ サーバとして再設定する必要があります。

-
- ステップ 1 シャドウ サーバの CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 `technician` としてログインします。 `tech$` プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 `down` と入力します。
 - ステップ 4 `y` と入力して、シャドウ サーバを停止することを確認します。
 - ステップ 5 シャドウ サーバが停止したら、`setup` と入力します。
 - ステップ 6 `5` と入力して、シャドウ サーバモードを選択します。
 - ステップ 7 プロンプトに従って、必要な情報を入力します。
 - ステップ 8 設定が完了したら、`restart enable` と入力します。



(注) `net` コマンドを実行すると、`setup` コマンドによる設定が上書きされます。したがって、`setup` コマンドを実行した後に `net` コマンドを実行した場合には、もう一度 `setup` コマンドを実行する必要があります。

プライマリ サーバの再オンライン化

-
- ステップ 1 プライマリ サーバの CLI にアクセスします。
 - ステップ 2 `technician` としてログインします。 `tech$` プロンプトが表示されます。
 - ステップ 3 `restart enable` と入力します。
 - ステップ 4 プライマリ サーバがオンラインに戻ったら、`swstatus` と入力します。
 - ステップ 5 シャドウ サーバのユニット 9 が再接続されていることを確認します。
 - ステップ 6 CLI で、シャドウ サーバにログインします。
 - ステップ 7 `swstatus` と入力します。
 - ステップ 8 シャドウ サーバに、プライマリ サーバのユニット 0 に接続されているシャドウ サーバとしてそのシャドウ サーバ自体が表示されることを確認します。
 - ステップ 9 少なくとも 15 分間待ちます。

ステップ 10 プライマリ サーバ上で実行されている会議がある場合は、CLI でシャドウ サーバにログインします。

ステップ 11 `cptrace` と入力します。データが適切に複製されていれば、コール トレースからデータが記録されている様子が表示されます。トレースに何も記録されていない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。テクニカル サポートを受けるための情報については、『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』を参照してください。

ステップ 12 `q` と入力して、`cptrace` コマンドを終了します。
